

貝塚

吉胡町・伊川津町・保美町にある縄文時代の大規模な貝塚。その大きさからも、



先人たちは、豊富な魚介類に恵まれて生活していたことがうかがえます。縄文時代は、気候が暖かくなったことによる海面上昇で入り江が発達しました。その海の資源を活用するとともに、定住する文化が生まれました。海の恵みは、先人のライフスタイルまでも変えていきました。

▲吉胡貝塚資料館（シェルマよしご）

文化

渥美半島は、海路を通じて、中世まで西からの文化が伝わりやすく、東西を結ぶ拠点として重要な場所と



▲伊良湖東大寺瓦窯跡（初立池公園）されていました。平安時代末期、伊勢神宮の力を背景に、伊勢湾を中心に発達した海上交通が日本経済に与えた影響は大きく、「渥美窯」の製品を全国的に流通させた原動力となりました。海は閉鎖されたものではなく、自由に開ける可能性を与えてくれるものだったのです。

▲伊良湖東大寺瓦窯跡（初立池公園）

娯楽

かつて、夏の一大レジャーといえば海水浴でした。昭和43年まで片浜町にあった「片浜海



▲昭和初期の片浜海水浴場水浴場」は、旅館が立ち並ぶほどのリゾート地として栄え、各地からの行楽客でにぎわいました。娯楽が多様化し、人々の嗜好が変わったとはいえ、夏といえばやはり「海」。時代が流れても、砂浜を走りまわる子どもたちの笑顔はきらきらと輝いています。

▲昭和初期の片浜海水浴場

それでも海は宝物

すぐ身近にある『海』。ときに津波や高潮といった恐ろしい表情を見せることもあります。私たちがの生活は古くから海の恵みによって育まれてきました。そして、私たちはこれからも、その恩恵を受けながら共存し、海とともに歩んでいきます。

漁業

海の恵みと聞いて、まず思い浮かぶのは「魚介類」ではないでしょうか。田原市は三河湾と太平洋に囲まれ、



▲赤羽根漁港に水揚げされたシラス豊かな漁場に恵まれています。三河湾側では「アサリ」「のり」「大アサリ」、太平洋側では「シラス」などを中心とした漁業が盛んです。なかでも愛知県のアサリは、大変おいしいと評判で、首都圏などで人気を博しています。

▲赤羽根漁港に水揚げされたシラス

工業

田原市・豊橋市・蒲郡市・豊川市にわたる重要港湾「三河港」。輸入自動車金額・台数とも17年連続日本



▲三河港（田原地区）一（平成5～21年）、輸出自動車金額・台数とも日本2位（平成21年）を誇っています。この港を中心として、田原市臨海工業地帯には自動車産業をはじめとした企業が進出し、活発な生産・物流活動が行われています。田原市の工業の発展は「海」があってこそなのなのです。

▲三河港（田原地区）